

学位論文審査の結果の要旨

氏名	MD. ASADUZZAMAN SARKER
審査委員	主査 糸原 義人 (印) 副査 古塚 秀夫 (印) 副査 能美 誠 (印) 副査 谷口 憲治 (印) 副査 松田 敏信 (印)
題目	Adoption of Organic Farming and Sustainable Livelihood Improvement of the Smallholders: The Case of Organic Agriculture Extension by PROSHIKA in Bangladesh
審査結果の要旨 (2,000字以内)	
<p>現在、多くの消費者は環境、健康問題に関心を持ち、有機食品産業は過去数年間、世界各地で重要な産業として成長を遂げつつあり、持続的農業を構成するキーワードの一つとしての“有機農業”は、多くの国の関心事になっている。しかし、バングラデシュはこの“有機農業”の生産・市場拡大の動きから大きく乖離しており、他のアジア諸国と比べて世界における有機食品産業におけるシェアはほとんどない。その原因は、概してバングラデシュでは農薬、化学肥料に依存した大規模・大量生産方式の作物生産が主流を占めていることによる。</p> <p>しかし一方、小規模経営の農家グループは生産コストを下げるために“有機農業”を実践し、ここでは農薬・化学肥料は極力避けられ、農家は農業システムを農薬・化学肥料フリーの持続可能なシステムに改善しながら家計の持続性を維持し、所得を増やしている。バングラデシュでは、こうした小規模農家グループの指導は主にNGOによって行われている。</p> <p>バングラデシュのこれらNGOの中では、PROSHIKAの歴史が最も古く、PROSHIKAは全国に220の地域開発センター(ADC)を有しており、この220のADCの内、89のADCが“有機農業”を推進している。PROSHIKAの有機農業普及プログラム(OAE)は、小規模農家、いわゆる小農の生活を改善することと、持続可能な“有機農業”を採用することで環境を保全している。</p> <p>以上の事項を踏まえて、本研究ではバングラデシュにおける小規模有機栽培農家の生活改善に焦点を当て、生活改善に果たしているPROSHIKAのOAEプログラムの有用性、貢献を明らかにすることを目的にしている。</p> <p>そのために、本論文は10章から構成され、第1～3章で、①有機農業の概念、バングラデシュにおける有機農業の可能性と課題、研究目的、②農業普及事業とPROSHIKAの概要、PROSHIKAの有機農業プログラム、③有機農業の優位点、先行研究等の紹介。</p> <p>第4～5章では、①分析の方法論として、「調査地域とデータソース、データ変換」、②分析変数の変数説明、そして有機農業発展のメカニズム、調査地における有機農業の社会的地位、有機農業選択決定要因等の説明がされている。</p> <p>第6～9章でバングラデシュの一地域をケーススタディとしながら、①小農家計収入に及ぼす有機農業の影響が「有機農業所得と農家家計との関係説明、有機農業所得に影響する要因分析」等によって、そして②有機農業選択による「フードセキュリティ問題」が有機農業の可能性として分析されている。また、③有機農業改良普及活動による農家家計の改善について、「バイナリーモデルによって小農・</p>	

有機農家の生計改善に及ぼす PROSHIKA の有機農業改良普及プログラムの効果として分析展開」され、最後に④PROSHIKA の有機農業改良普及事業、普及員についての農家の認知度についての要因解析が行われている。

第10章で、第1～9章までのまとめが総括して述べられている。

以上の各章（特に5章、6章、7章、8章、9章）から得られた分析結果を示せば、次の通りである。

分析調査の結果は、3つの村の小農グループのかなりの農家は、既に PROSHIKA による“有機農業”の普及・促進活動により、“有機農業”を採用、実践している。そして、“有機農業”を採用する場合、“有機農業”に対する農家の認識、捉え方が大切であり、優秀な農家の有機農業システムに関する認識、捉え方は、“有機農業”は所得を改善し、安全な食料供給をもたらすが、結果として積極的な“有機農業”採用の意思決定が環境汚染を減らすことにも繋がっている。

有機農産物栽培農家は生産コストの低減と共に、生産した農産物に価格プレミアムが付き、“有機農業”から確実に所得をあげることができ、その所得は家計を潤し、彼等の生活を改善している。また、“有機農業”は栽培作物の多様化によって農家家計における食の安全を改善するというよりもむしろ、小農グループ家計における食の安全を高めることが研究から明らかになっている。

PROSHIKA の OAE プログラムは、農家が必要とする収益のあがる“有機農業”に関連した社会資本（情報ネットワークの拡充）や人的能力改善資本（“有機農業”訓練機会の拡充）を提供し、加えて、PROSHIKA によって提供されるプレミアム価格を伴う市場へのアクセスは、同時に付加的な所得拡大に繋がり、小規模有機農産物生産農家の生活改善に繋がっている。

PROSHIKA について、小農・有機農家の多くは普及員との接触回数のみならず、普及員の信頼性についても不満を有しており、もしも PROSHIKA が農業改良普及員の信頼性を高め、有機農家ともっと頻繁に接触することができるなら、OAE プログラムの効果を更に高めることになる。しかし、持続的な生活改善を求めて有機農業の普及を目指す場合、PROSHIKA と他の NGO とのより密接な連携が必要であり、始めに政策的協調が必要とされる。その後、OAE プログラムと有機農家、NGO、市場関係者らとの協同等が求められる。こうした努力が“有機農業”を促進すると共に、地域に有機農産物市場を創出することができる。そして結果として、バングラデシュの貧しい小農の生活が持続的なものに改善され、貧困農家層の減少という効果が導き出される。

以上、本論文はバングラデシュでの多くを占める小農の生活改善に果たす有機農業とその効果、そして有機農業の普及を進める PROSHIKA の有用性、貢献について、現地の詳細なデータ収集、調査、研究から解析がなされ、ケーススタディではあるが、バングラデシュで果たす有機農業の効果は高く、PROSHIKA が有機農業普及に果たす役割も大きいことが明らかにされた。

バングラデシュでは農薬・化学肥料多用の近代農法による大規模・大量生産が主体であるが、小農はコスト面から農薬・化学肥料多用の農法を実践することは難しい。有機農業が小農の生活を改善できるとする知見は、バングラデシュ農家家計に大きな福音になるものと思われる。

以上、ここで得られた成果は、今後バングラデシュにおける小農の生活改善を進める上で極めて有用な知見として高く評価されるものであり、本論文を学位論文として十分な価値を有するものとして判定した。